

特許協力条約

PCT

国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条)
〔PCT18条、PCT規則43、44〕

出願人又は代理人 の書類記号 IDK-1068-PCT	今後の手続きについては、様式PCT/ISA/220 及び下記5を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2 0 1 1 / 0 0 3 7 2 1	国際出願日 (日.月.年) 2 9 . 0 6 . 2 0 1 1	優先日 (日.月.年) 3 0 . 0 6 . 2 0 1 0
出願人 (氏名又は名称) 出光興産株式会社		

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条 (PCT18条) の規定に従い出願人に送付する。
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 4 ページである。

この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

1. 国際調査報告の基礎

a. 言語に関し、この国際調査は以下のものに基づき行った。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から国際調査のための言語である _____ 語に翻訳された、
この国際出願の翻訳文 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

b. この国際調査報告は、PCT規則91の規定により国際調査機関が認めた又は国際調査機関に通知された明らかな誤りの訂正を考慮して作成した (PCT規則43.6の2(a))。

c. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでいる (第I欄参照)。

2. 請求の範囲の一部の調査ができない (第II欄参照)。

3. 発明の単一性が欠如している (第III欄参照)。

4. 発明の名称は 出願人が提出したものを承認する。

次に示すように国際調査機関が作成した。

5. 要約は 出願人が提出したものを承認する。

第IV欄に示されているように、法施行規則第47条第1項 (PCT規則38.2) の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。

6. 図面に関して

a. 要約書とともに公表される図は、

第 _____ 図とする。 出願人が示したとおりである。

出願人は図を示さなかったため、国際調査機関が選択した。

本図は発明の特徴を一層よく表しているため、国際調査機関が選択した。

b. 要約とともに公表される図はない。

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))
 Int.Cl. C07D239/26(2006.01)i, C09K11/06(2006.01)i, H01L51/50(2006.01)i

B. 調査を行った分野
 調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))
 Int.Cl. C07D239/26, C09K11/06, H01L51/50

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの
 日本国実用新案公報 1922-1996年
 日本国公開実用新案公報 1971-2011年
 日本国実用新案登録公報 1996-2011年
 日本国登録実用新案公報 1994-2011年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)
 CA/REGISTRY (STN)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y A	JP 02-052360 A (Fujitsu Ltd.) 1990.02.21, No.10 の化合物 (ファミリーなし)	1-3, 7-9 10-15 4-6
X Y A	JP 04-304465 A (Fuji Electric Co.) 1992.10.27, 化学式 I-63、I-65、 II-65、II-66 の化合物など (ファミリーなし)	1-3, 7-9 10-15 4-6
X	JP 07-011246 A (Fuji Electric Co Ltd) 1995.01.13, 式(I-2)、(I-3)	1-3, 7-15

C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

<p>* 引用文献のカテゴリー 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す) 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願</p>	<p>の日の後に公表された文献 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」同一パテントファミリー文献</p>
---	---

国際調査を完了した日 22.07.2011	国際調査報告の発送日 02.08.2011		
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 植原 克典	4P	9840
電話番号 03-3581-1101 内線 3492			

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y A	の化合物など (ファミリーなし)	10-15 4-6
X Y	BRANDL Stefan et al., An efficient new pyrimidine synthesis. A pathway to octupoles, Journal fuer Praktische Chemie/Chemiker-Zeitung, 1996, 338(5), pp.451-459, 式(I-2)、(I-3)の化合物など	1-3, 7-9 10-15
X Y A	HUANG Ping-Hsin et al., Synthesis and characterization of new fluorescent two-photon absorption chromophores, Journal of Materials Chemistry, 2006, 16(9), pp.850-857, 化合物 1 3	1-3, 7-9 10-15 4-6
X Y	BUSHBY Richard J. et al., Ferromagnetic spin-coupling 4,4'-through metaterphenyl: models for high-spin polymers, Journal of Materials Chemistry, 2007, 17(10), pp.955-964, ジアミン6化合物	1-3, 7-9 10-15
X Y A	KR 10-2010-075079 A (Cheil Industries, Inc.) 2010.07.02, 化学式 3 5、3 7 の化合物など (ファミリーなし)	1-3, 7-15 10-15 4-6
PX	WO 2010/110553 A2 (Dow Advanced Display Materials, Ltd.) 2010.09.30, 化合物 7 7 (ファミリーなし)	1-3, 7-15
PX	WO 2010/131930 A2 (Cheil Industries Inc.) 2010.11.18, 化学式 ad-1~ad-4 の化合物 (ファミリーなし)	1-3, 7-15
PX	WO 2010/151083 A2 (Cheil Industries Inc.) 2010.12.29, 化学式 2 4 の化合物 & KR 10-2010-0138630 A	1-3, 7-15
PX	WO 2011/055912 A1 (Rohm and Haas Electronic Materials Korea Ltd.) 2011.05.12, 化合物 1-3、2 2 (ファミリーなし)	1-3, 7-15

<調査の対象について>

請求項1-9に記載の式(1)、(6)-(9)で表される芳香族アミン誘導体は、非常に多数の化合物を包含している。しかしながら、PCT第5条の意味において開示されているのは、クレームされた化合物のごくわずかな部分にすぎず、PCT第6条の意味で十分に裏付けられていない。

よって、調査は、明細書に開示され、裏付けられている部分、すなわち、Nに直結する置換基がベンゼン環又はベンゼン環と縮合した環のものについて行った。